

# 琉球大学学術リポジトリ

## 1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の 戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書 No.4

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 朝鮮半島有事, ロジャース国務長官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880</a>



極秘

大臣 副官 幸

治元 幸

近藤 幸

末 幸

北 幸

沖縄に因り在米米大使と懇話の件

42.7.19 北米局長

7月18日在米米大使招宴の際 懇話せし如き事  
を下記のとおり。

本末— 15日の大臣大使会談の際 大使より  
1970年内閣並びに ヴェトナム戦争との内閣

に付質問せられた。 1970年内閣は本末  
別個の内閣で、たゞこれか name に付さない

と云ふは沖縄に集中するであろうと云ふ内  
閣の内閣と云ふ。又 ヴェトナムに因り

大臣の御趣意は、彼方は沖縄に因り米  
軍のヴェトナム作戦に著しく支障を来すやうな

措置を遂げる考はないか、ヴェトナム戦争の  
如何に拘り、今日より日米双方が協定

GA-6

外務省

し得る様及形に 沖縄返還を實現する  
方途を見出すよう 協議したいと云ふこと

である。

大使— 自分も左様に承つた。問題は日米

が沖縄に於て米軍にどう云う地位を与へ  
ようとするかである。

本末— 彼方がいふやうな完全な自衛隊、即ち  
改裝通りの保証をするなら 返還は善

易に進められると考へたが、それには日米内  
閣の御趣意の様な困難がある。又彼方が

内閣並みの地位を主張すれば、米側は  
返還を拒否する。その間には双方の

満足し得る解決があり得ないかを探求  
したいのである。

GA-6

外務省

大使— 米側は日方、如何を望むかを  
示し苦しいのである。核兵器を

撤去せよと言はれるなら撤去するで  
ある。その他、最終兵器とも云うべ

きボリスのようなものではない種類の  
核兵器も、沖絶には置かないと云う

この結果として抑止力は若干だけ  
減少せしめらるゝと云う。核の問題は

別にしても、前回会談の際申し述べ  
た、現にB-52の配備撤去が沖

絶から求まらねば、又在沖絶の米軍  
が通常兵器による韓国に何等かの

脅威し得ることを、大まかに抑止  
力となるのである。

本館— 大使の言はれることは、沖絶の基礎は  
現状通り、即ちいかなる完全な自由使用

がなければならぬと云うこと、特に同  
じか、沖絶の現状は放棄し得ず、他

方「完全な自由使用」と云うことは、国内軍  
情から困難である。この内の問題を

開き、内々に協議しようとするに  
ある。

大使— 如何なる「自由」と云うことは、日方側の  
問題である。施設撤去後の、沖絶

の抑止力を維持せしめようとするには、日方、  
例に於て相当な政治的見地を引受

るべきである。従つてその政治的見地と、沖絶の  
現状と、これを接する日方の政治的判断の

問題である。  
李元一総領事大佐と仲絶の懸念問題は日米  
のいわゆる防衛姿勢の問題であること  
は御認識に存じあり。その欠点から視て  
復帰要求をどう相臨するか甚慮之れ  
いさつである。吾内には御承知の如き事情  
があるから我方が米軍に認め得る地位  
の限界について慎重を要するを得ない。我  
方から之れらの条件と提出せよといはれ  
る。抑々桂軍において軍事的役割を  
荷っているのは米軍有つたから必要有  
軍事的条件と云うものは米側から示され  
なければ我方から判言する材料はない。  
大佐「必要」と云うのはどう云うことか?」

李は米軍に何を期待するの?  
李元一 一般的に云へば明らかである。即ち  
我方は米軍が桂軍に対する教導的抑制  
止力として存在することを要する。その大旨の  
中で、仲絶の米軍が如何なる地位を占  
められたいか、軍事技術的の二つで  
はなないか?  
大佐「軍事技術の二つなら米側から何用?  
米軍人より専門家を派遣して訓練して  
いこののであるか。根本は日米が何を米  
軍に期待するかと云うは李側の決断の  
問題である。  
李元一 仲絶の現状は数量すべからず非だ  
の立場から、假に我方が基礎は本土

並みと云うことと「通達を要する」と云う事柄は  
どうするか。

大塚 - 本土並みならず米側は仲尾を引揚  
げたい。

本庄 - そればかり言いつまみである。仲尾の  
価値はそんなものもあるまい。

大塚 - 自衛も通達を阻害しようとするものな  
きは毛頭ないか。線画して申上げるか。

内閣は日本が仲尾の米軍を掃蕩力と  
して存続させようとするなら、その立場か

ら如何なる政治的決断をしなければなら  
ないか。地位を譲りようとするか。と云うことだ。

米側は先んじて態度を限りし  
てほしい。

本庄 - 秋方より見れば、いわゆる「自衛使用」と  
「本土並み」の間に秋方として妥協し

得る基地の地位を見出したいのである。  
そのうちには軍事技術の問題が入り来

るが、これは米側の見解を示し、  
必ずあると行する。秋方から側面から

「核は事前協議、米国内作製は自由」と  
云う様なことを持ち出すことは余り根拠

がないと思ふ。  
秋方の立場を保持した所では、1970年は

無事のことで、92年の秋方には、秋方は  
これを仲尾通達問題に拘る。秋方の

の要請として尋ねるものではないと云うこと  
を申上げたいからである。秋方の協

議の採算如何は 通算は 概十の 概  
算中 24 所 記 載 され ない。 或 又

概十が 終 った とき 直 ち には 出 来 ない と  
云 っ こと 亦 記 載 され ない の だ らう。

土 庫 - その 長 は 決 算 後 だ と 思 っ 。